

## 産業サイバーセキュリティ研究会 WG1 電力 SWG（第13回）議事要旨

日時 : 令和4年2月21日（月）10時00分～12時00分

出席者 :

（座長）	渡辺 研司	名古屋工業大学大学院
（委員）	有村 浩一	JPCERT/CC
	稲垣 隆一	稲垣隆一法律事務所
	内田 忠	電力 ISAC（代理:澤井 志彦）
	大崎 人士	産業技術総合研究所
	大友 洋一	電気事業連合会
	門林 雄基	奈良先端科学技術大学院大学
	桑名 利幸	情報処理推進機構
	新 誠一	電気通信大学
	高倉 弘喜	国立情報学研究所
	都筑 秀明	日本電気協会
	手塚 悟	慶應義塾大学
	新田 哲	JFE スチール

### 議題

1. 「大手電気事業者のサイバーセキュリティ対策状況の実態把握」に関する取組について
2. 電力分野のセキュリティ対策の高度化に向けた取組の方向性について
3. 小規模発電設備等におけるサイバーセキュリティ対策について
4. CPIC に関する取組状況について

### 要旨

## 1. 「大手電気事業者のサイバーセキュリティ対策状況の実態把握」に関する取組について

- (1) 「2021 年度「大手電気事業者のサイバーセキュリティ対策状況の実態把握」に関する評価結果について」を電気事業連合会より説明。
- (2) 自由討議
  - 総じて良い方向に進んでいると考えているが、取組が陳腐化することを懸念している。ノウハウを蓄積・伝承しつつ、取組を継続することを期待する。
  - 管理的アプローチは、セキュリティ改善の一手法であり、最悪の事態を想定したアプローチも重要である。
  - サイバーセキュリティに関する観点だけでなく、サイバーフィジカルセキュリティに関する観点も含めた形で取組が進められると良い。
  - 自己評価によるベンチマークには限界がある。各社の事情を踏まえた評価や透明性の確保についても検討できると良い。

## 2. 電力分野のセキュリティ対策の高度化に向けた取組の方向性について

- (1) 「電力分野のセキュリティ対策の高度化に向けた取組の方向性について」を事務局より説明。
- (2) 自由討議
  - 電力安定供給のためには、IT と OT の両方についてセキュリティ対策の高度化を目指していくことが重要である。
  - 対策実施の主体や検討するテーマを拡大しつつ、事業者のセキュリティ対策意識の強靱化が重要である。具体的な取組においては、事業者が実際に対応できるよう、実効性のある対策を検討する必要がある。
  - 電力分野とガス分野は強く関連し、ガス分野においても自由化が進展しているところ、セキュリティ対策の検討にあたっては、電力分野とガス分野とが連携して検討を進められると良い。
  - 電力産業の性質を踏まえ、すべてのプレーヤーを取りこぼすことなく、優先度を付けた上で対策を検討することが重要となる。
  - 対策が実施できている事業者の意見を抽出するだけでなく、対策ができていない要因についても検討することが必要である。
  - リスク分析にあたっては、攻撃者の意図・作戦・戦略を検討した上で、その作戦を

実行する際にどのような手口を使って侵入するのか、その結果どのような影響が生じる可能性があるかを考えることが望まれる。

- IT システムの運用においてはアウトソースの比率が高いことを踏まえ、個社での対策だけでなく、業界全体としてのルールの検討が重要である。
- DX が進展する中で、新電力などではクラウド活用が進んでいる。火力発電等では運用の集中化も進んでおり、これらを突いた攻撃は影響が広範囲に及ぶので、そのような点にも留意して欲しい。

### 3. 小規模発電設備等におけるサイバーセキュリティ対策について

- (1) 「小規模発電設備等のサイバーセキュリティ対策実装例の公開について」を事務局より説明。

### 4. CPIC に関する取組状況について

- (1) 「CPIC に関する取組状況について」を経済産業省サイバーセキュリティ課より説明。
- (2) 自由討議
  - 国内電気事業者の事業形態は他国と大きく異なる。国内の事業者にとってメリットとなるような取組を検討できると良い。

(以上)

お問い合わせ先

資源エネルギー庁 電力産業・市場室

電話：03-3501-1748